

幻想書人

公正無私の審査とは

公正無私の審査とは自分の利益や感情に左右されず公平である
こと残念なことだが今はありえない

・昔40年前は師匠が落選弟子が入選することもあったが今は絶対がない

・審査員が毎年違うのに入選数が毎年偉い先生社中団体は入選50点

50から10 3から30 10から30ありえない

・新入選数がなぜか毎年微妙に変化がない

なぜか100前後 50 10 35 200ありえない

・入選すれば自分に利益がある 御礼

・公平とは意味がわからない

・審査員が長生きに失敗したら誰も入選ない一年ごとに入選

・特選だけが額表具が違う

・報道は無言クロクオーナーシップ

書は自身の独自性を主張することも大切ですがリスクもある

チャレンジ精神を大切にしながら自己本位に流れず完成度の高い料理
をしなければいけません

過去の遺物だけに頼った作品 昭和から書風が変わらない社中団体
肩書のある先生社中団体 審査員が誰もいない社中団体
今の公正無私 of 審査とはどのような審査なのだろうか



2024年10月30日 煌陵

